

# マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 28 原作シナリオ

山崎浩治

## マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 28 原作シナリオ

---

### # 1 居酒屋「まわりみち」店内

仕事を終えた美鈴とあかりがカウンター席にいる。

アヤカ「(二人の前に器を置いて)お茶漬け、お待……」

あかり「美鈴さん、そろそろ子ども作ろうよ」

美鈴とあかりの前で「石像」のようになるアヤカ。

美鈴「あ〜らら、ウブなアヤカが固まってしまったじゃない」

アヤカ「(顔を引きつらせて小声で)お二人の子どもにはお母さんが二人いて、いいですよ。あはは(と奥に消えていく)」

美鈴「(あかりに声をひそめて)アヤカの言う通りよ。サトシ君はいつまで女装続けんの？ お父さんになっても女装続けるつもり？」

あかり「(平然とお茶漬けを食べ始め)女装はあたしの一部だから。家に帰ったら、ちゃんとシパパ、やるよ。それより美鈴さんのお母さん、紹介して。金沢にいるんでしょ？」

美鈴「(怖い顔になり)あたしにはお母さんなんていない」

### # 2 「××児童養護施設」表(美鈴の回想)

美鈴のOFF「あの人はあたしが高校を卒業するまで、ずっと施設に預けっ放しだった」

手荷物一つで出てくる10代の美鈴。

美鈴「(周囲を見回して、寂しそうに歩き出す)……」

### # 3 工場のラインで働いている作業着姿の美鈴(回想)

美鈴のOFF「高校卒業と同時に施設を出て働き始めたけど、どこも続かなくて」

### # 4 犀川大橋でぼんやり河面を見ている美鈴(回想)

美鈴のOFF「そのうち住む場所もなくなって、『仕方ないからエンコーでもするか』と考えていた時に声をかけてくれたのが香澄ママだったの」

お水の出勤着姿の香澄が美鈴に声をかけている。

### # 5 居酒屋「まわりみち」(回想)

腹を空かせた美鈴が香澄の隣で猛然と定食を食べている。

香澄「お水は誇りを持ってできる仕事よ」

美鈴のOFF「それから香澄ママは自分が勤めてる店にあたしを紹介して、アパート借りるお金ができるまで居候させてくれたんだ」

### # 6 高級クラブの店内(回想)

香澄と美鈴が並んで接待している。

#7 もとの居酒屋「まわりみち」

美鈴「あたしにお母さんがいるとしたら、それは香澄ママ」

#8 おんぼろアパートの一室・表(回想)

美鈴(小学校低学年くらい)に母・幸子が話している。

幸子「外で遊んできて。部屋の電気がつくまで来ちゃダメよ」

幸子の肩越しに、室内にいる男の姿がちらりと見える。

美鈴の前でピシャリと閉じられるドア。

外では雨が降っている。

美鈴、アパートの階段に腰を下ろし、お絵描き帳に「ママの絵」を描き始める。

強まる雨。暗くなる外。それでも部屋の電気は点かない。

幼い美鈴が一心に「ママの絵」を描いている。

#9 もとの居酒屋「まわりみち」

美鈴「(遠い目で)母親の愛情を知らないあたしでも、いいお母さんになれるのかなあ……」

あかり「(その横顔を見つめて)……」

#10 「金沢プライベート・リサーチ」室内(別の日)

サトシが訪れ、オネエ所長に何か話している。

#11 サトシと美鈴の部屋(別の日)

美鈴とサトシがくつろいでいる。

サトシ「今日はお店休みだし、カラオケにでも行かない？ いい店見つけたんだ」

美鈴「どんな店？」

サトシ「美鈴さんのお母さんがやってるカラオケスナック」

美鈴「(顔色を変えて)……」

サトシ「オネエ所長に調べてもらったんだ。高校出てから会ってないでしょ？ 一度くらい会いなよ」

美鈴「お節介はやめて」

サトシ「ちょっと顔見に行くだけ。美鈴さんは変装してけばいいじゃん」

#12 郊外にある「カラオケスナック幸子」・表

#13 同・店内

大きなサングラスとウィッグで変装した美鈴とサトシが来店している。

店内では高齢の男性客が気持ち良さそうに絶唱中。

カウンター内では厚化粧の幸子がタンバリンを叩いて盛り上げている。

そこへ高校生くらいの若い男が店に入ってきた。

若い男「小遣いくれよ」

幸子「バイトして自分で稼がんかい」

若い男「バイトは学校で禁止なんだよ、ババア！」

幸子「(渋々財布から千円札を数枚取り出し、息子に渡して)……」

若い男「サンキュ!(奪うように金を受け取り、店を出て行く)」

美鈴「(すっとボックス席を立ち)もう帰ろ、サトシ君」

サトシ「美鈴さん、あれ」

サトシが指さすカウンター奥の壁に絵が飾られている。

# 8で美鈴が描いていた「ママの絵」だ。

美鈴「(瞠目して)……」

サトシ「(幸子に)ねえママさん、その絵は何？」

幸子「昔、娘が描いてくれた絵。あたしの宝物」

#### # 14 おんぼろアパートの一室(回想)

テーブルに置かれたいちごのショートケーキ(ろうそくが一本立っている)。

美鈴「お誕生日おめでと、ママ! これ、プレゼント!(と絵を渡す)」

幸子「(嬉しそうに受け取って)……ありがとね、美鈴」

#### # 15 もとの店内

美鈴「(押し殺した声で幸子に)お勘定して」

幸子「元気だったんかい、美鈴？」

美鈴「あたしだって分かったの？」

幸子「お腹を痛めて産んだ子ぐらい分かるわ」

美鈴「(感情が爆発して変装をかなぐり捨て)ふざけんなよ! 何が宝物だよ! だったらどうして施設にあたしを迎えに来てくれなかったのよ!」

幸子「ママ再婚してな、いろいろあったんや。美鈴には悪いことしたと思っとるよ。でも美鈴のことは忘れた時ないから」

美鈴「(涙があふれ)あたし、いいお母さんになってやる。あんたなんかより何百倍も、何万倍もいいお母さんになってやる!(店を飛び出していく)」

サトシ「僕、美鈴さんを幸せにします(幸子に一礼し、美鈴の後を追っていく)」

幸子「(見送って)……いいお母さんになれ、美鈴」

#### # 16 夜の片町を出勤着でやってくる美鈴とあかり

美鈴「サトシ君、これからも女装していいけど、一つだけ条件がある」

あかり「何？」

美鈴「あたしよりキレイになるな」